



道徳だより

2025.7.16 号
みよし市立緑丘小学校



本校では、道徳の授業を隣の学級担任も見られるようにしています。つまり、1組が道徳の授業を行うときは、2組の担任が参観できるように、また、逆に2組が道徳の授業を行うときは、1組の担任が参観できるようになっています。そして、互いに参観し合うことで、発問を少し変えたり、発問に対して子どもたちがどんな意見を言うのか事前に知ったりすることで、よりよい授業づくりに努めています。さらに、ある教材を使って1組の担任が2組の道徳の授業を受けもつこともあり、子どもたちの道徳性を高めるために日々工夫を行っています。

今回も道徳の授業に関する疑問を Q&A でまとめてみました。

Q5 道徳性を養うと、どんなよさがある？

今の子どもたちを見ていると、行動を支えているのは「友達からどう思われているか」と「ムカつく」になっているかもしれません。友達から「あの子のことを無視しよう」と誘われ、自分はそんな気がなかったのに「無視をしなければ、私は友達からどう思われるか」と思ってしまいます。そして、ムカつき感で毎日その子を見ていたら、次第にムカついてきて、その結果、自分も無視をしてしまうのです。このような考え方も、ある意味道徳性ですが、友達や自分のムカつき感に振り回されたとても狭い道徳性です。ところが、子どもが、命の大切さや家族についての考え方、本当の友達とは・・・といった道徳的価値についての考え方や感じ方、生き方を多様に身に付けていると『何か間違っているよ・・・』『やっぱりやめよう・・・』と自分で深くしっかりと考える【**主体的な判断**】が可能になります。残念ながら、もし無視をしてしまったとしても、後味の悪さが残り、『やっぱり間違っているよ・・・』と振り返ることができます。つまり、「道徳性を養う」とは、**物事に対する考え方、感じ方、生き方を多様にする**ことです。それらが豊かであればあるほど、自分で考え、豊かな人生を送ることにつながるのです。

Q6 「主体的・対話的で深い学び」のある授業とは？

道徳の授業で克服すべき課題は、「分かり切ったことを言ったり、書いたりすること」と「登場人物の気持ちばかり考えること」です。また、「教師がしゃべりすぎて、すべて説明すること」も避けるべきです。つまり、「**主体的・対話的で深い学び**」のある授業を目指します。なぜ「**主体的**」が大切なのか。それは、受け身の学習よりも能動的な学習の方が深く学べるからです。例えば、旅行へ行くのに、旅行会社にすべてお任せで付いていく旅行と、自分で苦勞して計画して、予約も自分で行う旅行を比べると次の旅行で力を発揮するのはもちろん後者でしょう。自分から課題意識をもち、進んで取り組むことが大切です。「**対話的**」が大切なのは、学びは必ず、人と人の中で起こるからです。一人で考えていても分からないことがあります。そんなときに友達やいろいろな人とやり取りしながら考えると分かってくるようになるのです。さらに、「深い学び」が得られるからこそ、子どもたちは学びに対して「**主体的**」になり「**対話的**」になるのです。

Q7 授業では「深い学び」のためにどんな工夫をしているの？

道徳の授業では、教科書にある教材を使用します。さまざまな教材がありますが、教材ごとに目指すべき方向が決められています。つまり、「ねらい」があります。そのねらいを達成するために、授業後の子どもたちがどんな振り返りを書けばよいか、どんな発問にするのか、など子どもたちにとって「深い学び」となるために、さまざまな工夫をしながら担任は授業に臨んでいます。